

留学報告 フィリピンへのスタディ・ツアーを実施

掲載日：2007.09.28

<アジア地域総合研究プログラム>スタディ・ツアーを行いました。

8月19日(日)から9月8日(土)の3週間、東南アジアのフィリピンで、本学外国語学部佐竹眞明教授、和田幸子教授の引率のもとスタディ・ツアーを行い、本学学生17名が参加しました。

首都マニラでは、日本政府の援助機関・国際協力機構(JICA)や国際交流基金を訪問、名古屋のNGO、日本・アジア相互交流センター(ICAN)による診療・フェアトレード活動、元ストリート・チルドレンの教育・生活を支えるフィリピンのNGO活動を見聞するなどしました。マニラ郊外のタルラック州では、環境NGOのプロジェクトも見てきました。住民の話聞き、子どもたちと遊ぶ中で、政府による援助だけでなく民間NGOの活動に対しても理解を深めました。

本学と交換留学協定を結んでいるアテネオ・デ・マニラ大学のみならず、名門の国立フィリピン大学も訪問。学生は両大学でソーラン節を踊り、習字を教え、フィリピンの学生との交流を深めました。

また観光・商業都市セブにも訪れ、視察後、トレド市の農村でホームステイをし、ステイ先の家族や子どもたちと楽しいひと時を過ごしました。

参加学生たちは「人間として成長した」「ツアーに来てよかった」「フィリピンの人はみんなニコニコ笑顔で優しかった」などと振り返り、いろいろな事を学んだスタディ・ツアーとなりました。

スタディ・ツアー：本学外国語学部国際文化協力学科の科目である国際協力実践論、NPO・NGO実践論の現地実習。但し、国際協力やNGO活動について、より多くの学生が学べるよう、経済学部、商学部の学生も参加できる「アジア地域総合研究プログラム」として実施しています。



JICAフィリピン事務所にて
援助の実態を聞く学生たち



マニラの街頭で子どもたちと
遊ぶ学生たち



マニラの元ストリートチルドレンと
遊ぶ学生たち



ソーラン節を披露
アテネオ大学にて



アテネオ大学の学生と一緒に習字



セブ州トレド市農村にて
稲刈りを手伝う

留学報告 人間健康学部生が米国ワシントン大学へ留学研修

掲載日：2007.09.24

人間健康学部生16名が2週間にわたりワシントン大学医学大学院等の視察および教育課程を体験する留学研修に参加しました。

本学人間健康学部では全米有数の医療・福祉施設の視察および教育課程の体験を通して、米国における専門領域の情勢を理解し国際的視野の増進を図ることを目的に留学研修を実施しました。

人間健康学部 留学研修の概要

期 間：2007年8月31日～9月13日

参加者：人間健康学部学生16名、教員2名

研修先：ワシントン大学医学大学院および関連施設（ミズリー州セントルイス）

主たる研修内容

1. ワシントン大学医学大学院の研究室見学
 - 運動生理学分野の研究内容のレクチャーおよび体験
2. 同大学院の理学療法および作業療法課程の見学、体験
 - 理学療法課程の授業見学 - Essential Clinical Skills および徒手筋力検査法、関節可動域測定、関節モビリゼーション、触診テクニック
 - 理学療法の修士博士課程での研究内容レクチャーおよび体験
 - 作業療法院生による作業療法プレゼンテーション
3. 附属施設の先端医療施設の視察
 - Rehabilitation Institute
 - BARNES-JEWISH HOSPITAL
 - Children ' s hospital
4. 関連施設の見学および同施設での専門職の活動実践の理解
 - Enabling Mobility Center(EMC)の見学および体験
 - Naturally Occurring Retirement Center (NORC) 見学および利用者との交流
 - Rehabilitation Instituteでの作業療法体験
5. 文化施設の見学
SAINT LOUIS ART MUSEUM、GATEWAY ARCH、Union Station、St.Charles等
6. 言語研修
 - 理学療法および作業療法院生らとの会食等の交流
 - 現地高校のJapanese Pop Clubとの交流

Enabling Mobility Center(EMC)見学



対麻痺（下半身麻痺）患者の上肢・
上背部筋の筋力強化マシンの実際

Dr.Holloszyの研究室見学



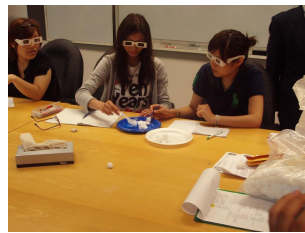
トレッド・ミルとスパイロメーターを用い
ての運動生理学演習。運動負荷と呼気ガス
分析による最大酸素摂取
量の測定

Enabling Mobility Center(EMC)見学



本センターの役割は、脊髄損傷後や脳血管
障害による後遺症を伴う方々の身体機能や
社会的活動性の向上
を種々サポートする

作業療法クラスの体験学習



障害と環境因子について、視覚障害体験メ
ガネ（視野狭窄、半盲、視力障害等）を装
着しての作業体験。道具への介入（皿の色
を変更）で作業
が明らかに変化

医学大学院理学療法クラスの

授業見学・演習参加



「Clinical Skills」の関節機能検査とし
て関節可動域（ROM）測定の演習見学。
本学学生による測定演習

理学療法・作業療法の

大学院生との交流



留学報告 ~ 2007年度 夏季短期留学【カナダ】 ~

掲載日：2007.10.10

英米語学科の伊藤江梨奈さん ~ 留学体験記 ~

今年度夏季カナダ・オカナガン大学への1ヵ月以上に及ぶ短期留学に参加しました。

2007年度夏季カナダ短期留学

期間： 8月5日～9月6日

留学先： カナダ・ブリティッシュコロンビア州・バーノン市のオカナガン大学（名古屋学院大学海外協定校）およびカナディアン・ロッキー（バンフ周辺）とバンクーバー市内

プログラム： カナダ・バーノン市内の家庭にホームステイしながら毎日オカナガン大学に通学しました。キャンパス近くの湖での課外活動や大自然の中でのキャンプにも参加し、プログラム最後は雄大なカナディアンロッキーとバンクーバーでの滞在を楽しんだ後、全員無事に帰国しました。

伊藤さんの「カナダ留学体験記」は下記ファイルをダウンロードしてお読みください。

関連ファイルダウンロード

[伊藤 江梨奈さんカナダ短期留学体験記](#) ファイルをダウンロードしてお読みください。



カナダ留学体験記

伊藤 江利奈

私は夏休みを利用して短期留学でカナダに行ってきました。短期留学は一人一家族の家にホームステイさせてもらい、カナダの大学に通うプログラムでした。私がカナダに決めた理由は、授業の一環として学校からキャンプや湖に連れていってもらえる行事、アクティビティが充実していたからです。そのアクティビティのおかげで私は、学校のたくさんの仲間達と仲良くなる事が出来ました。

そして、ホームステイに不安を感じることなく友達を家に招いたり、学校帰りに仲間と町に出掛けたり、カナダ生活を楽しむことが出来ました。カナダは多種多様な移民の国として知られる、広大な自然を持つ国です。実際にカナダに留学に行き、私は学校や町やキャンプ場で様々な人種に出会う機会がありました。彼らと出会う事で、彼らの文化・価値観に触れることが出来ました。そして、日本人としての価値観、日本の文化を再確認させられるきっかけになりました。

まず、最初に驚いたのはカナダ人の会話の仕方でした。彼らは、本当に喋ることが大好きなようでした。彼らの会話は、相手を気遣う挨拶から始まり、冗談を言い合い、一日を楽しく過ごそうとしていることが伝わってきます。よく見かけたのは、スーパーの店員達が、客と楽しそうに会話していることでした。私のホストマザーも、スーパーは店員が喋りかけてくれるので親しみやすいと言っていました。私の留学先がカナダの小さな町だったこともあり、すれ違う人に挨拶を交わす習慣があるようでした。その光景は、バスの車内や、散歩道、飲食店などで見かけることが出来ました。カナダでは、知り合いでなくても商品や店内について意見を言い合います。この習慣のおかげで、私はたくさんの現地の人達に出会うことが出来ました。日本にもこの習慣が根づけば、楽しく毎日を過ごせるだろうなと思いました。

カナダの学校生活は、学校が夏休みだったのでカナダ人よりも、私たちと年齢が近い日本・韓国・中国からの留学生との交流がほとんどでした。授業は英語の勉強以外に、カナダの文化についても学びました。また、プレゼンテーションやスピーチなど、仲間の前で発表する機会を多く与えられました。そのプレゼンテーションでは、母国語以外の英語を共通語として使い、グループで意見をまとめ、発表する難しさを知りました。私のグループは、とても時間が掛かかってしまい、学校以外でも内容について話し合う時間をつくりました。苦労しましたが、とても楽しかったです。

学校からボランティア活動に誘われ、カナダの小学校を訪問してきました。小学生たちは、私達日本人に興味があるようで、すぐに打ち解けてくれました。私達は一人ひとりの名前をひらがなで書いてプレゼントしたり、科学の実験に参加したり一緒に楽しく遊ぶことが出来ました。

カナダでお世話になったホストファミリーや先生方、カナダの仲間達。彼らと出会えたことで、異文化に触れる機会が増え、たくさんの楽しい経験が出来ました。本当にこの留学体験は、一生の思い出になりました。この短期間の留学で、日本の価値観・日本の文化を再確認することが出来ました。その価値観は、将来の物差しとして役立てることが出来ると思います。またカナダに留学してみたいです。